

CLOSE UP!



乳がんに対する 加速乳房部分照射

本院では、乳がんに対する様々な放射線治療を実施しています。今回は、平成30年12月に導入されたSAVI(サヴィ)という医療機器など、乳がんに対する放射線治療の新しい選択肢についてご紹介いたします。

● 乳がん治療における選択肢

近年、乳がんに対する取り組みの拡大やSNSなどを通じた情報発信により、乳がんという病気の認知度が大きく向上しています。乳がんは、女性に最も多いがんの1つで、早期発見症例では標準治療により制御率や生存率が高いことが特徴です。早期の乳がんに対して日本では手術による部分切除後に患側の乳房全体に放射線治療を行う全乳房照射が一般的ですが、患者さんの状態や希望に合わせ、部分的に放射線治療を行うことを選択することもできます。このような放射線治療の方法を加速乳房部分照射と言います。

● 加速乳房部分照射とは

以前の乳がん治療では、早期の乳がんであっても乳房を全て切除する「乳房全切除」が一般的に行われていました。しかし、できるだけ乳房を残したいという患者さんが多いことから、現在は「乳房温存療法」が行われています。この治療は腫瘍を含む小さな範囲で切除手術を行ってから全乳房照射を行うことが一般的です。しかし、全乳房照射は5～6週間毎日通院する必要があるうえ、皮膚の乾燥や拘縮という副作用の可能性もあり、患者さんの生活に負担や支障が生じることもあります。一方、加速乳房部分照射では、皮膚や肺への影響も少なく、副作用を低減できることが分かっています。本院では平成30年12月から「SAVI」という医療機器を利用した治療を導入しており、この方法では約10日間の入院で照射が完了するうえ、全乳房照射に比べて乳房をより美しく保つことができます。本院ではSAVI以外にもマルチカテーテル法を含め、様々な放射線治療の選択肢を患者さんにご説明しています。

全乳房照射法

体外から乳房全体に放射線を照射する放射線治療。



図提供：コニカミノルタジャパン株式会社

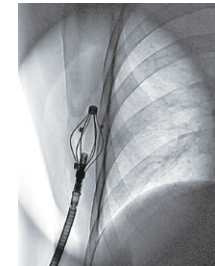
加速乳房部分照射法

SAVI(サヴィ)

早期の乳がんの場合で、がんを切除した場所に空洞を残し、その部分にSAVIという医療機器を挿入して、体内から直接放射線を照射する放射線治療。



図提供：コニカミノルタジャパン株式会社



マルチカテーテル法

早期の乳がんの場合で、乳房に複数のカテーテルを挿入して放射線を照射する方法。乳房の整容性を重視した手術が行われた場合などにもできる放射線治療。

患者さんへ一言

放射線治療を受けられるがん患者さんは、日本では3割程度に留まりませんが、米国などでは7割位あり、一般的ながん治療として浸透しています。患者さんの状態や希望に合わせた治療の選択肢があるということを知っていただけるよう、丁寧にご説明します。加速乳房部分照射を希望の方は、Bra-Shi加盟施設の乳腺外科が当科までお問い合わせください。

● 『Bra-Shi』による地域連携

このような放射線治療は整った設備や医療機器、そして専門家の力が必要であるため、乳がん治療を行う全ての医療機関で受けられる訳ではありません。しかし、住んでいる場所やかかりつけ医によって、患者さんの治療の選択肢が制限されてしまわないよう、本院の放射線治療科の川中講師が中心となって、乳がん患者さんの放射線治療を本院が受け入れるための連携ネットワーク『Bra-Shi』が設立されました。令和元年11月時点では県内外の8施設がBra-Shiに参加しており、県外から本院にご紹介いただく患者さんも増えています。

「Bra-Shi」加盟施設

徳島大学病院
とくしまプレストケアクリニック
徳島赤十字病院
田岡病院
徳島健生病院
吉野川医療センター
高松市立みんなの病院
国立高知病院

